

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791800065		
法人名	有限会社 くばの里		
事業所名	認知症対応型グループホームくばの里おはな		
所在地	沖縄県国頭郡金武町字金武4196-31		
自己評価作成日	令和7年3月4日	評価結果市町村受理日	令和7年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4791800065-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和7年 3月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員のほとんどが元デイサービスの職員であり、これまでの経験を活かしてレクリエーションや運動に力を入れ、入居者様に日常の中でメリハリのある活動を提供しています。特に、身体を動かすことや頭を使うゲームなどを取り入れ、入居者様が楽しみながら身体や脳を活性化できるよう工夫しています。職員と入居者様が頻繁に会話を交わし、入居者様同士のコミュニケーションも積極的に促進しており、これにより施設内はとても活気に満ちた雰囲気です。入居者様が安心して自分らしく過ごせるよう、職員はまるで家族や友人のように接し、入居者様同士も自然と親しくなれるような環境作りに努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から近い住宅街の奥まった場所に立地しており、敷地内には、グループホームが3か所と現在閉所中のデイサービスの建物がある。広い駐車場やデイサービスのホール等を共有し、利用者は敷地内で日常的に散歩を行っている。前回の外部評価の指摘事項に対して迅速に対応しており、運営推進会議への利用者参加・ハラスメント防止のための研修・防災訓練の実施について、改善策を目標達成計画に沿って実施している。「ラインワークス」等のSNSを活用して、職員間・管理者と職員間・職員と代表者間のスムーズな意思疎通環境が整備され、活用されている。就業環境の整備により働きやすい環境を実現し、就業規則等、各種書類が適切に作成・整備・管理されており、コンプライアンスの遵守に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のケアの中で問題が生じた際には、理念に立ち返り、その意味を再確認することで、その人らしい生活を支えるための行動を実践できるようにしている	事業所では、3つの介護理念と5つの介護方針を定めている。事業所開設時に管理者を中心に職員で話し合い策定した。職員からもわかりやすく取り組みやすいという意見があり、日々の実践に活用している。介護実践の心構えとしての理念と行動指針としての介護方針を策定することにより介護実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に数回、近隣の保育所や青年会の慰問を受け入れ、交流を行っている また、日常的には散歩の際や事務所前の自動販売機で地域住民と関わる機会があり、時には野菜のおすそ分けをいただくこともある	自治会には未加入だが、元職員が近隣に保育園を立ち上げていて園児等と日常的に交流する機会を設けている。又、地域の青年会とは旧盆時のエイサー・演舞披露等の交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様のご家族やその知人に対して、相談や助言を行っている。直接的に地域へ貢献する活動は行っていないが、近隣のカフェから事例講演の依頼があり、今後協力する予定である			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ご家族から介護士とは異なる視点の意見が多く出され、大変参考になっている。また、看護師も参加しており、医療的な観点からのアドバイスをいただき、ケアの質の向上に活かしている	運営推進会議については、法人が運営する3つのグループホームが合同で開催している。前年度の外部評価で課題となっていた利用者の会議参加は、5月以降は調整され参加が実現している。利用者家族の参加もあり、会議では、看護師等の知見者や地域包括支援センター職員と質疑応答を行い運営に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社協や包括支援センターが主体となって開催する地域ケア会議や事例検討会に参加し、関係を築いている	運営推進会議には、行政直轄運営の地域包括支援センター職員が毎回出席している。地域包括支援センターでのセミナーについて告知案内があり、内容や地域の高齢化状況等について報告を受けている。他市町村からの入居問合せなどについて対応している。社協や行政に元職員が勤務していて情報共有等、連携している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で学んだことを日常的に意識し、再確認するとともに、「こういったことも身体拘束に当たるのか」といった話し合いを行い、理解を深めている 玄関には来客用のセンサーを設置しており、出入りの有無を確認できるため、外出を希望する入居者様には声をかけ、希望に応じて散歩などを行っている	身体拘束をしないケアの実践について、指針・マニュアルを策定している。指針に基づいた身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会の定期的な開催と議事録が整備されている。研修についても年に2回実施しており、介護理念と介護方針に沿った支援について学びを深めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことを身体拘束の話と合わせて、日ごろから意識しながら職員同士で話し合っている。直接的な身体的拘束だけでなく、日常で起こりやすい言葉や態度による虐待についても、「この言葉や態度は虐待に当たるのか」と気になることがあれば、その都度確認し合っている	虐待防止についての指針とマニュアルは策定され、委員会は2回の実施と議事録が整備されている。研修も実施され、内容については、職員にアンケートを実施したり、「虐待の芽チェックシート」を活用して日常の実践の振り返りを行った。「アンガーマネジメント」の研修も実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業は数名の入居者様が利用しており、支援内容について学ぶ機会があるため、必要に応じて相談している 権利擁護については、利用を検討している方がいるため、担当の町職員と調整を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解と納得が得られるまで、細かく説明を行っています。改定がある際には、文書をお送りし、同意を得るようにしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスを設置しているが、これまで利用されたことはない、家族からの意見や要望は、面会時や電話・メールで伺い、必要な対応を行っている。入居者様からの要望や意見は、日々のケアの中で対応している	運営推進会議では、利用者家族からの面会や差し入れについての意見や要望に応え、地域の認知症高齢者の対応に関する質問に対して、適切に回答している。面会の要望については、隣接する建物のホールを提供し、団らんの時間を確保している。差し入れについては、事故を防ぐためにチェックシートを作成し家族・職員と確認できる体制を整備した。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案については、その都度職員に声をかけて相談を促し、月に1回のミーティングでも意見を求めている また、社内連絡用のLINE Worksを活用し、直接会えない場合でも相談や意見を聞ける環境を整えている	職員間、職員と管理者、職員と代表者間のコミュニケーションの活性化のために「ラインワークス」を導入して活用している。代表者と直接繋がっており、備品購入や設備の修繕等の要望を行い、迅速に対応している。隣接する建物で運営していたディサービスの停止についても職員・代表者間で意見を出し合い決定した。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に応じて、管理者から代表者に給与見直しの要望を出している。希望休については、できる限り希望通りに調整し、プライベートな生活が仕事によるストレスを抱えることのないよう努めている	前回の外部評価では、ハラスメント防止に向けた研修の実施が改善点に挙げられていたが、5月と9月に研修を実施し、職場におけるハラスメント防止に関する基本方針・カスタマーハラスメント防止方針を策定している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修はほぼ毎月実施しており、外部研修についても機会があれば参加を促し、シフト調整などを行っているが、職員不足のため参加できないことが多い		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設が研修を実施する際に声をかけていただき、その際には参加しています。今後、相互に職員を一人ずつ交換し、互いの施設で職場研修を行っていきたいと話合っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所検討の段階から困りごとの相談を受け、入所前に面談や電話で数回相談を行い、心配や要望を聞き取って不安を解消し、安心してもらえるよう努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームでの生活や、本人に提供する介護サービスの内容を説明し、不安や要望を伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に至った困りごとの解決に向けたサービスを提供するだけでなく、入所後に新たに必要となることがあれば、迅速にサービス内容を変更・調整できるよう、関係者間で情報共有や相談を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴や現在のADLをもとに、本人ができることを把握し、それを継続できるよう支援するとともに、お互いに助け合いながら生活できる環境づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から様子を報告し、職員では補えない寂しい気持ちについては、家族に直接会いに来てもらい、ケアしてもらっている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係がほとんど途切れている方が多いが、職員に昔からの知り合いや、同じ地域出身の利用者がいるため、施設内で馴染みの関係を続けることができている	町内から入居した利用者については、馴染みのスーパーや商店等での買い物の要望があり継続できるように支援している。町外から入居した利用者については、馴染みの関係継続が課題となっており、出身地へのドライブ等を検討している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性的な方が多く、トラブルが起こりやすいため、席の配置には配慮している。また、皆さん負けず嫌いな方が多いため、競争心を刺激するようなレクリエーションを行い、お互いに意識し合いながら楽しめるよう工夫している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、気になることや不安なことがあれば、いつでも相談を受け付けることをご家族に伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活支援を通じて、入居者様の思いや意向を理解できるよう努めている。意向を表現できない方については、日常的な会話や表情から思いを汲み取り、ご家族と連携して、本人の希望に沿った生活が実現できるよう努めている	入居している利用者は、意思表示できる方が多く、職員は、利用者の好きなこと・過ごし方等について把握している。居室で本を読んだり、テレビを見たり、計算ドリルにチャレンジする等、意向に沿った生活環境の整備に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回の聞き取りやアセスメントを通じて、これまでの生活状況を把握し、サービス提供後は日々の関わりを通じて本人の状態を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや状態を把握するよう努め、普段と変わったことや心身の状態の変化について職員間で情報共有している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の変化を早期に把握し、サービスの変更や新たに必要となることについては職員と協議し、ご家族にも報告した上で、相談を経て介護計画書を作成している	毎月の職員ミーティングを活用して利用者個々の介護計画を確認し、計画に沿った実践ができているかの振り返りを行い、課題を抽出・改善案を話し合い介護プランに反映している。介護計画作成者は、プランの説明を適宜実施し、職員の理解を促している。担当者制度を導入していて、モニタリングに活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人介護記録、業務日誌、電子ツールを活用して情報共有を行い、その日の体調に応じたケアを提供している。また、入居者様一人ひとりの心身状態の変化については、月1回の職員ミーティングで話し合い、介護計画の見直しを検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に合わせて必要なサービスを提供できるように努めている 現在、2名の入居者様が自費での訪問リハビリを利用している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育所の慰問を受け入れ、その際には入居者様が体操をしたり、子供たちにプレゼントを渡すなど、受け身ではなく一緒に楽しく活動している		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々通っているかかりつけ医がある場合は、そのまま通院してもらい、相談があった場合には近隣のクリニックを紹介し、本人とご家族に選んでもらっている。受診は基本的にご家族が対応することもある。入居者の半数は協力医療機関のクリニックによる訪問診療を受けている	病院受診は基本家族対応としているが、家族の高齢化や車椅子での移動対応など困難なケースも増えてきている。入居後も本人や家族が希望するかかりつけ医で医療を受けられるように、職員が通院同行を支援している。訪問診療を受診のケースでは、事業所の協力医の他、認知症専門医の受診など複数の医療機関との連携を密に行なっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週5日勤務で、毎日状態把握と情報共有のために訪問している。また、週に1回は現場に入り、一日を過ごし、ご入居者様と関わっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には可能な限り同行し、情報提供を行っている。退院時には、ご家族と病院と連絡を取り合い、スムーズに受け入れができるよう調整している		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重篤化時の指針や看取り指針について説明している。入居後に体調に変化があった際は、ご家族と連絡を取り、主治医や看護師とともに相談できる体制を整えている	本人、家族へは入居時に説明し、意思確認等については、その都度行なっている。管理者は、終末期に向けた対応について職員の不安を聴き、対応に関わるように連絡体制を整え、事業所内での研修を開催している。今年度、終末期の支援を2件対応した。本人や家族の意向を踏まえて主治医と職員が連携をとり、安心して最期を迎えられるように取り組んでいる。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に対応するマニュアルを整備し、ホールに掲示している。また、研修を実施して職員の意識を高めている。訓練はまだ実施していないが、看護師による応急処置を見学し、指導を受ける機会を設けている	事故発生時には、5日以内に全職員が各自で事故発生についての分析や対応について報告し、その内容を取りまとめて対策が図られるようにしている。月1回のミーティングにも対応の根拠を確認し、リスクが高い利用者の対応を全職員で意識していくように取り組んでいる。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的の実施している。	年に2回、消防避難訓練を実施し、町や県の防災訓練にも参加している。また、BCPIに基づいた災害訓練研修も行っている。感染症対策についても指針を整備し、委員会の開催や研修、訓練を実施している	マニュアルを作成し、年2回昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難経路の確認を全職員で把握し、避難誘導がスムーズにできるように取り組んでいる。また消火器の使い方なども訓練で定期的に行なっている。3日分の食料品を備蓄し、消費期限の管理を行い、期限切れ間近の食品は献立に取り入れ、災害時のメニュー作りに活かしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、個々の尊厳を守るための配慮を徹底した言葉かけを行い、プライバシーを守るための配慮を研修などで教育しています。その知識を支援に活かせるよう努めています	本人と家族には入居時に「個人情報についての同意書」の説明を行い、同意を得ている。また職員に対して事業所ではプライバシー保護の研修を実施し、職員一人一人が利用者の気持ちや希望を大切に考え、利用者のできることを増やすための支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや考えを表出できる入居者様には、できる限り本人の希望に沿った支援を行っている。表出が難しい方には、選択肢を提示する言葉や工夫を用い、表情などから意図を読み取って支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の一日の流れはあるが、本人の意思を尊重して無理にペースを合わせることなく生活出来るように支援してる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室に行けない方には、職員が希望の髪型を聞いてカットをしている。朝は洗面台の鏡で自身の顔を確認してもらい、その後ホールへ案内している。衣服は季節に応じて衣替えを行い、季節感のある服を本人に選んでもらっている		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストがあれば、材料が揃っている時にその日に調理し、材料がない場合は後日作っている。モヤシやニラなどの下ごしらえは皆さんにお願いし、その日の食材として活用して一緒に調理できる環境を整えています	日勤者が昼食と夕食を担当、夜勤者が朝食を担当しているが、日勤者がゆとりのある時には、朝食まで準備している。利用者も野菜の下処理や職員が大根を購入時には漬物作りが得意な利用者が張り切って腕を振るい、職員はその手伝いをしている。利用者からのステーキのリクエストに対応して、外出時に外食を企画した。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録で摂取量を把握し、食事形態は入居者様の状態に応じたものを提供している、誤嚥のリスクを軽減し、食欲が湧くよう工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがいと毎食後の口腔ケアを実施している。磨き残しがある方には、仕上げ磨きや歯間ブラシを使用し介助行い、義歯は就寝前に洗浄液に浸けて清潔を保っている		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を確認し、定期的に声掛けを行うことで、失敗を減らすよう努めている。失敗が多い方には、早めの声掛けを行い、排尿の量が多い時間や少ない時間を把握して、案内のタイミングを調整している	排泄チェック表を使用して、一人ひとりに合わせて排泄パターンを把握している。リハビリパンツを使用している利用者也、日中はトイレでの排泄ができるように声掛けをして、生活リハビリと合わせてトイレでの排泄ができることを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を確認し、日々の状態を把握して情報共有を行っている。便秘予防のため、食物繊維が豊富な食材を使った食事を提供し、毎日の運動や水分摂取の促進を行っている。便秘が続く場合には、処方された便秘薬で調整を行っている		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定日は決まっているが、その日の体調や本人の希望に応じて実施している また、保湿を目的とした入浴剤を使用し、その香りでリラックスできるよう配慮している	入浴は週3日となっているが、本人の希望に応じて入浴回数や時間帯等は臨機応変に対応している。片麻痺がある方が入浴する時には、床にバスマットを敷いたり、手すりにはすべりどめを取り付けたり、利用者の状態に合わせて転倒予防の工夫をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中には決まった活動もあるが、本人のペースで休息を取れるよう配慮し、別の時間に運動などの個別支援を行っている。各居室の室温や湿度はエアコンで調整し、快適に過ごせるようにしている。就寝時間や起床時間は特に決めておらず、昼夜逆転しない範囲で本人のペースで生活してもらっている		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報ファイルを作成し、常に最新の情報を更新している。定期薬の変更や臨時薬が処方された際には、申し送りで説明を行い、情報共有を徹底している	服薬マニュアルを作成しているが誤薬が発生したため、安全な服薬支援と誤薬の再発防止の取り組みとして、色付きの袋を活用している。朝は赤、昼は緑、夜は青、就寝時は黄色の小袋に利用者ごとにシールも貼って薬を入れて文字だけではなく目でも確認できるようにすることで管理がしやすくなり、誤薬の再発防止となっている。	8月と11月に誤薬があったことから、服薬マニュアルと服薬方法の工夫を行なっている。今後も継続して職員一人一人が意識して安全に服薬ができるように努めることが望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った作業をお願いし、実施してもらっている。食事前の挨拶の掛け声や合図を担当してもらったり、体操の指示役を入居者様の方をお願いすることも多い。コミュニケーションを取りながら、役割を持てるよう支援している		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があった場合はご家族をお願いしているが、日常的な希望としては近隣の散歩や、自動販売機での飲み物購入などには都度対応している	感染症の予防のために事業所内で過ごすことも多かったが、一人一人の気持ちに寄り添い、楽しみとなるように月に1、2回の買い物やドライブ等の外出支援を行なっている。事業所は住宅街の静かな場所にあり、近隣には保育所もあるため散歩しながら、子供達の元気な姿を見に行ったり、初詣や浜下りなど季節行事に合わせた外出も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族にもお願いし、小さな財布に小銭を持たせることを進めている。お金を使わない入居者様の方も、持っているだけで安心感を得ている。買い物後には残金を一緒に確認し、自己管理の意識を持ってもらっている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方はいないが、希望があればいつでも電話できるよう支援している		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓の座る位置には名前を書いて固定し、自分の席だと安心して座れるように工夫している。また、イベントや季節行事の飾りつけを行い、一年の流れを感じられるようにしている	共用リビングは、アイランドキッチンで利用者が出入りしやすい空間となっている。ご飯の炊ける匂いや音を聞くことができ、家庭的な雰囲気がある。また、利用者の好きな活動がいつでもできるように本や脳トレが整理されている。限られた空間の中で利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設が狭いため、一人になれる空間を作ることが難しいが、皆さん自身のペースで居室とホールを行き来しながら過ごしている。ホールでの座席位置は、仲の良い方々を近くに配置するなど配慮している		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っている物や、ご家族が持ってきた物を居室に置き、それぞれの居室がその方自身が作り上げた空間となっている	自宅と同じような環境で過ごせるように、居室には馴染みの家具や写真等の思い出の品があり、本人が過ごしやすい空間を作ることができている。各部屋にはナースコールが設置されており、利用者が起床時やトイレ誘導、エアコンの調整を職員にお願いしたい時に使っている。	居室内にオムツが無造作に置かれているため、保管方法の工夫が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉には名前を貼り、入居者様自身が確認できるように工夫している。トイレの表示は大きな文字で見やすくしてある。施設内には段差を設けず、手すりを設置し、移動経路には物を置かないようにして、安全に移動できる環境を整えている。脳トレ用の道具や読書用の本は、入居者様が手に取りやすい位置に置き、自由に活動できるようにしている		